

個別施設計画

策定年月 | H31.1

施設名	森林研究所(木材加工研究室)		所在地	真庭市勝山1884-2		
敷地面積	6,905.78 m ²		棟数	16 棟 (計画記載対象 3 棟)		
延床面積	1,955.80 m ²			※対象は200m ² 以上の建物(車庫、倉庫等は500m ² 以上) ※公舎・寮は全て対象		
設置目的	木材加工に関する試験研究を行う。					
【想定される自然災害】						
予想震度 震度5強 津波 - 浸水 0.5m以上1.0m未満						
建築規制	非線引都市計画区域、準工業地域(建ぺい率:60%・容積率:200%)					
エネルギー使用量 (2017年度)	電気	ガス	水道	燃料(灯油)		
	182,040 kWh	9 m ³	435 m ³	2,665 ℓ		
管理上の特記事項	敷地内未利用地なし、敷地内貸付地なし					

1 施設内建物の概況

名称	試験棟	実習場	寄宿舍
築年(西暦)	1988年	1963年	1966年
構造	木造 1階	軽量鉄骨造 1階	コンクリートブロック造 2階
建築面積	462.16 m ²	231.83 m ²	192.74 m ²
延床面積	462.16 m ²	231.83 m ²	309.74 m ²
主要な用途 (室名等)	展示研修、加工試験 強度試験	製材試験、保存試験 注入試験	
主要な設備 (屋外を含む)	電力設備(受変電設備) 消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備	電力設備(受変電設備) 消防設備(自動火災報知設備)	
利用状況	中	高	低
耐震性 ※1	有	無	
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2		
	中性化 ※3		
長期使用の適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	屋根 外壁

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値≥0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

2. 対応方針

(1) 施設全体の方針

- ・試験棟は、予防保全を行いながら使用を継続する。
- ・実習場は、耐震性がなく老朽化が進んでいるため、改修を行い使用を継続する。
- ・寄宿舍は、老朽化が進んでおり、今後の利用見込みもないため取り壊す。
なお、事務所棟は延床面積156㎡と小規模なため、建物ごとの詳細は記載していないが、使用は継続する。

(2) 建物ごとの方針

区分	対応方針
試験棟	・予防保全を行いながら使用を継続する。
実習場	・耐震改修を実施する。 ・外壁の定期更新を実施する。 ・設備等の定期更新を実施する。
寄宿舍	・老朽化が進んでおり、今後の利用見込みもないため取り壊す。

3. 施設全体のスケジュール

(概要)

- ・試験棟は、電気や機械設備の経年劣化状況を見ながら定期的に更新する。
- ・実習場は、未耐震建築物となっており、耐震改修を行うほか外壁や消防設備(自動火災報知設備)を定期更新し使用を継続する。
2019年 実施設計 2020年 施工
- ・寄宿舍は、屋根・壁が老朽化が進み、今後の利用見込みもないため取り壊す。

(単位:億円)

区分	対応方針	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
試験棟	予防保全		予防保全を図る。								
実習場	耐震改修			設計	施工 耐震改修、 外壁改修、 消防設備更新						
	耐震改修とあわせて行う長寿命化等										
寄宿舍	廃止			用途廃止・ 除却							

4. 概算費用

--